東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年9月24日

高齢者への敬意

親愛なるムスリムの皆様。アッラーが私たちに下された人生という恵みは、誕生と死の間で行なわれる旅路のようです。この旅路は、子供時代、若者時代、青年時代といったような時期を経て続き、最後に老年時代へといたります。人生の不変の法則として、それぞれの時期において、そこにいる人々は、次の世代の人々にその場所を譲ります。老年時代を生きる人々は、人生経験を積み上げてきてはいますが、体力的には力を失ってきています。クルアーンでは、「誰でも長寿させるさいには、われは創造を逆に戻らせよう。かれらは、それでも悟らないのか。」（ヤー・スィーン章第68節）と啓示されています。この時期を迎えた人々は精神的により繊細です。そして関わりや援助を必要としています。この観点から、高齢者は孤独のうちに一人で残されないようにするべきなのです。頻繁に訪問し、喜ばせ、彼らに敬意や愛情を示す必要があるのです。

親愛なるムスリムの皆様。愛情、敬意、いたわりは、アッラーが私たちに恵まれた崇高な感情です。人はこの崇高な感情によってのみ、幸福になることができます。この感情がないところでは、悲しみと損失があるのです。だから私たちの教えは、人々への敬意や愛情を、基本的な道徳的義務とし、母親、父親をはじめとして、年長者や老人に対する行動について重要な奨励や警告をおこなっています。全ての項目においてそうであるように、ここでも、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は最良の模範です。彼は私たちに、人々に対して常にいたわり深く、笑顔で、助けをいとわない人となることを、自ら実践されつつ教えられました。「慈しみ深い者にはアッラーも慈しみ深くあられる。アッラーによって創造されたものを慈しみなさい、アッラーもあなた方を慈しまれるだろう。」とおしゃられました。生涯を、私たちのため、社会のために働き、骨を折り、その経験を私たちに伝えた老人たちは、あらゆる愛情や敬意にふさわしい存在なのです。

親愛なるムスリムの皆様。社会のあらゆる階層に、物質的、精神的に他人の愛情、かかわり、友情を必要とする人々が多く存在します。笑顔で近況を尋ねたりすること、単純なことであっても彼らの欲求を満たすことは、老人たちにとって大きな意味をもつものです。

現在老人である人々が以前は若者であったように、現在若者である人々も老人になるのだということを忘れてはいけません。今日のフトバを、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）の次のハディースで締めくくりたいと思います。「母や父が、あるいはそのどちらかがそばで年老いて行ったにもかかわらず天国に入れない人はなんと残念なことだろう。」「子供たちを慈しまず、年長者たちに敬意を示さない人は、われわれの仲間ではない。」